



新たな価値

感動のEV走行を、電欠の不安がない安心感とともに。

CLARITY
PHEV

大きく伸びたEV走行距離

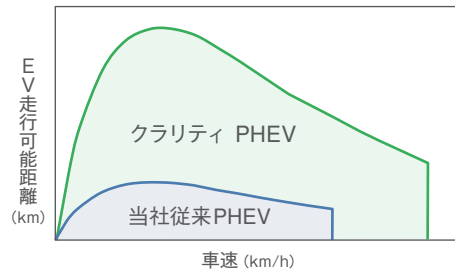
電気モーターでの走行こそ、CO2削減をめざすクリーンカーの可能性を広げる鍵。クラリティ PHEVは、このEV走行距離（充電電力使用時走行距離）をミドルサイズのPHEVとしてトップレベル*1に伸ばしました。JC08モードで114.6km*2となるこの数字は、多くの方にとって、クルマで走る1日の走行距離よりも長いと考えられるもの。しかもPHEVはEVと異なり、バッテリー容量が少なくなってもハイブリッド車として走行を続けることができることも大きなポイント。電欠の不安がなく、EV走行を楽しめるクラリティ PHEVこそ、最も身近な次世代電動車の選択肢です。

*1 2018年7月現在、Honda調べ。
*2 国土交通省審査値

幅広い速度域でEV走行が可能

従来のPHEVの多くは、高速道路などを走行するとエンジンがかかってしまうという特性を持っていました。クラリティ PHEVは、よりクリーンかつ静かに走れるEV走行を、より高速域まで可能にすべくシステムの能力を磨きあげています。

粘るEV走行(距離&出力拡大)



高いEV走行駆動力

すでにハイブリッド車にお乗りの方は、アクセルを踏み込むとすぐにエンジンがかかってしまう、といった経験をお持ちかもしれません。クラリティ PHEVは、EV走行駆動力を高めることにより、アクセルを踏んでもEV走行を継続しやすい性能を獲得しています。

EV走行レンジ大幅拡大

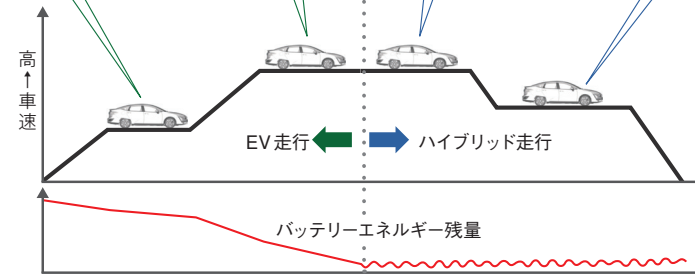
EV走行(市街地/郊外)
力強く爽快な
ダイレクト感のある走り

EV走行(高速)
電動パワートレーン出力
アップにより高速道路でも
EV走行可能

ハイブリッド走行もEVフィール

ハイブリッド走行(高速)
電動パワートレーン出力
アップにより優れた加速
応答性を実現

ハイブリッド走行(市街地/郊外)
加速時にエンジンを吹き
上げない発電制御でEV
フィール持続



魅力は「クリーン」だけじゃない、 電気で走る面白さ。

モーターによる電動走行は、ある意味とてもユニークな体験です。初めての方はたいてい非常に驚かれる。普通のクルマと変わらないカタチで、運転方法も基本的に同じとわかっていいのに、そのパワーの出方、加速のなめらかさ、音の静かさ、どれひとつをとっても乗り慣れた従来のクルマとは別世界です。でも、問題もある。モーターだけで走るピュアEVを考えると、多くの方がおっしゃるのは、いわゆる「電欠」の不安です。ガソリン車の燃料が残り少なくなったら、誰もがすぐにスタンドで給油する。でも電気がなくなりそうになったらどうすればいいのか、そもそもどこへ行くべきなのか、よくわからない。ピュアEVには、いまはまだガソリン車や従来のハイブリッド

車のような気軽さが足りないのです。そこでPHEVの出番です。プラグインハイブリッド車と従来のハイブリッド車は似たようなものとお考えの方も多いと思いますが、実はまったく違うものです。モーターだけで走れる距離が桁違いに長い。その意味では、むしろピュアEVに近いともいえます。そして、そのうえにバッテリーが残り少なくなればエンジンで発電しながらモーターで走るハイブリッド走行もできる安心感までついているからこそ、PHEVは「電動走行」を気兼ねなく、心ゆくまで楽しめるんですね。クラリティ PHEVは、面白くてクリーンなモーターによる走りを少しでも長く続けられるよう、バッテリーをたっぷり積んで、システムの効率もうんとあげて、電動走行へのこだわりを最大化したクルマ。この一台で、ひとりでも多くの方に、わくわくするような電動走行を体験していただきたいですね。

(談：クラリティ PHEV 開発スタッフ)